

文化遺産的 SP レコードを聴いて
オーディオ 100 年史の黎明期を知る
(初期の国産レコード選)



(初期の SP 盤は曲名、演奏者等の日本文字は右から左へ書かれていた)

国立国会図書館の歴史的音源

1900 年初頭から 1950 年頃までに国内で製造された SP 盤及び金属原盤の音楽、演説等約 5 万の音源をデジタル化し収録したもの。

日本放送協会、日本音楽著作権協会、日本レコード協会他 6 団体が参加した。

内、本日の演奏者の収録数

吉住小桃次	60 曲	高山喜恵	4 曲
柳兼子	10 曲	モギレフスキー	なし
宮城道雄	329 曲	ルウタヴァーラ	なし
関屋敏子	98 曲	ディックミネ	160 曲
市丸	636 曲		

吉住小桃次 (生没年不詳)

経歴不詳

① 越後獅子 (長唄) (三) 好いた水仙

大正 11 年頃ラップ吹込み ヒコーキレコード 4965 肉声原盤

[注] 「ヒコーキレコード」((株) 帝国蓄音器商会) は大正 8 年創立。

大正 10 年 (株) 日本蓄音器商会の傘下に入る。

(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター編 日本コロムビアの歴史から)

柳 兼子 (1892-1984)

アルト歌手。白樺派の柳宗悦の妻。1954 年国立音楽大学教授、
1961 年紫綬褒章受章、1965 年日本芸術院恩賜賞受賞、
1966 年皇后還暦記念御前演奏、1972 年日本芸術院会員。



② 四葉のクローバ (ルーテル 曲、乙骨三郎 訳)

③ 風 (CG ロッティ 詞、西條八十 訳、弘田龍太郎 曲)

誰が風を見たでしょう 僕もあなたも見やしない
けれど木の葉をふるわせて 風は通りぬけてゆく -----

大正 14 年 1 月ラップ吹込 ニッポノホン 1175

[注] ニッポノホン ((株) 日本蓄音器商会) は明治 43 年創立、昭和 2 年英国
COLUMBIA と資本提携、日本コロムビアとなり電気録音技術を導入する。

宮城道雄 (1894-1956)

作曲家、箏演奏家。神戸生まれ。十七絃の発明者としても知られる。大検校であつたため「宮城検校」と呼ばれた。

④ 狸の泥舟・チョコレート (童曲) (葛原しげる 詞、宮城道雄 曲)

二部合唱 牧瀬数江、上野恵子 箏伴奏 宮城道雄

昭和 5 年 11 月録音 VICTOR 50444

関屋 敏子 (1904-1941)

コロラチュラ・ソプラノ歌手、作曲家。1914年三浦環に師事。1928年ボローニア王立音楽愛好家協会音楽院ならびにリヴオルノ高等音楽院卒。同年ミラノ・スカラ座に入団、数々のオペラのプリマドンナを演ず。1932年ミラノ・ヴェルディ音楽学校国際作曲家協会より作曲家証書、芸術章受賞。



⑤ 野いばら (川路柳虹 詞、関屋敏子 曲)

日本の情緒にコロラチュラの技巧を織りまぜた名曲、ヨーロッパでも好評を得た。

伴奏 ミラノ・スカラ座管弦団

昭和4年8月録音 VICTOR 4133

市丸 (1906-1997)

本名 後藤まつえ。長野県松本市生まれ、19歳で上京、清元、長唄、小唄それぞれ名取となるまで精進を重ねた。その天賦の美貌と美声を買われ、人気芸者となった。昭和44年文化庁芸術祭優秀賞受賞、昭和47年紫綬褒章受章、昭和56年勲四等宝冠章受章。



⑥ 一里二里なら (流行唄) (横堀恒子 詩、松平信博 曲)

昭和11年8月録音 VICTOR 53786

一里二里なら忍んで行こが なんで千里の波こえりよか
春は春風 秋ア秋風に 港娘のせつないころ

高山喜恵 (生没年不詳)

女流ヴァイオリニスト、経歴不詳。

⑦ 庭の千草

⑧ 船頭小唄

ギター伴奏

昭和10年頃録音 REGAL 68589

[注] REGALはColumbiaの廉価盤として昭和8年発売開始された。

アレキザンダー・モギレフスキー (1885-1953)

ロシアのヴァイオリニスト。モスクワ音楽院を首席で卒業した。ニコライ 2 世のための宮廷楽団の学長を務めた。昭和 5 年に 2 度目の来日をし、そのまま日本に永住した。

大家の風格を持った演奏家であったと同時に東京音楽学校で教鞭をとり、諏訪根自子他数多くのヴァイオリニストを育てて、日本のクラシック音楽の水準を著しく向上させた恩人として忘れることのできない存在である。墓所は小平霊園にある。

独奏曲の録音は国内のみで、海外録音はないと云う。

⑨ トロイメライ (夢) (シューマン 曲)

⑩ G 線上の歌謡 (バッハ 曲)

昭和 6 年頃録音 POLYDOR 1024 文部省推薦

アウリッキ・ルウタヴァーラ (1906-1990)

ソプラノ歌手、経歴不詳。

⑪ 組曲ペールギュントよりソルベークの歌 (グリーグ 曲)

ペールギュントの帰りを待ちわびてソルベークが歌う
(堀内敬三 訳)



冬は逝 (ゆ) きて春過ぎて	春過ぎて	
真夏も去りて年経 (ふ) れど	年経れど	
きみが帰りをただわれは	ただわれは	
誓いしままに待ちわびる	待ちわびる	あゝ あゝ あゝ

昭和 10 年頃録音 NIPPON TELEFUNKEN 13116

付録

ディックミネ (1908-1991)

⑫ 火の接吻 (ディックミネ 訳詩、バッキー白方 編曲)

伴奏 バッキー白片とアロハハワイアンズ

昭和 27 年録音 Teichiku C-3168

